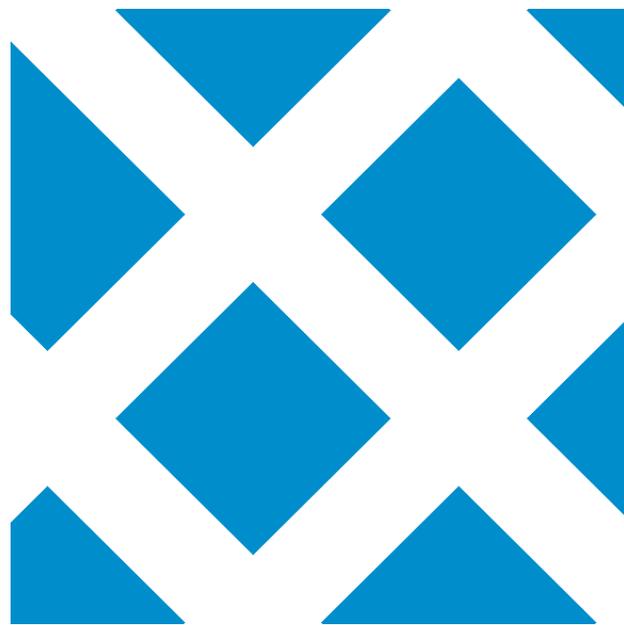


教育委員会事務の点検・評価報告書

(平成29年度対象)



平成30年9月

萩市教育委員会

■ 目 次

| | |
|--------------------------|--------------|
| 1 教育委員会事務の点検・評価について | ・ ・ ・ ・ ・ 1 |
| (1) 趣旨 | |
| (2) 点検・評価の対象事業 | |
| (3) 点検・評価の方法 | |
| 2 教育委員会の活動について | ・ ・ ・ ・ ・ 2 |
| (1) 教育委員会会議 | |
| (2) その他の活動 | |
| 3 点検及び評価の結果 | |
| <事業点検・評価シート> | |
| No.1 ふるさと萩への誇りと志の育成 | ・ ・ ・ ・ ・ 3 |
| No.2 学力の向上 | ・ ・ ・ ・ ・ 6 |
| No.3 豊かな心の育成 | ・ ・ ・ ・ ・ 9 |
| No.4 健やかな体の育成 | ・ ・ ・ ・ ・ 12 |
| No.5 地域コミュニティの核としての学校づくり | ・ ・ ・ ・ ・ 14 |
| No.6 教育の専門家としての教師の育成 | ・ ・ ・ ・ ・ 16 |
| No.7 特色ある学校づくりの推進 | ・ ・ ・ ・ ・ 18 |
| No.8 教育環境の整備 | ・ ・ ・ ・ ・ 19 |

1 教育委員会事務の点検・評価について

(1) 趣 旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、平成20年4月から施行されたことに伴い、教育委員会は、毎年、事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表しなければならないこととなりました。

萩市教育委員会では、法の趣旨に則り、「教育委員会事務の点検・評価」を次のとおり実施し、報告書にまとめました。

(2) 点検・評価の対象事業

点検・評価に当っては、萩市学校教育振興基本計画（平成27年度～平成31年度）の第3章の重点取組事項として掲げる次の8項目を対象としました。

この報告書における点検・評価の対象とした重点取組事項

- ・ふるさと萩への誇りと志の育成
- ・学力の向上
- ・豊かな心の育成
- ・健やかな体の育成
- ・地域コミュニティの核としての学校づくり
- ・教育の専門家としての教師の育成
- ・特色ある学校づくりの推進
- ・教育環境の整備

(3) 点検・評価の方法

- ・重点取組の項目ごとに点検・評価シートを作成しました。
- ・点検・評価シートにおいて、重点取組の目的を明らかにするとともに、目標を掲げました。

また、実施状況に係る成果を検証し、今後の取組について検討しました。

- ・点検・評価の結果について客観性を確保するため、学識経験者で構成する萩市教育委員会事務の点検・評価委員会を開催し、意見をいただきました。

2 教育委員会の活動について

(1) 教育委員会会議

平成29年度においては、教育委員会会議を13回開催し、38件の議案を審議、可決しました。内容は、次のとおりです。

| | |
|--------------------------|-----|
| ① 教育行政の基本方針等に関する事項 | 4件 |
| ② 教育委員会規則等の制定又は改廃に関する事項 | 15件 |
| ③ 教科用図書採択等に関する事項 | 2件 |
| ④ 人事に関する事項 | 4件 |
| ⑤ 各審議会等委員の任命に関する事項 | 11件 |
| ⑥ 文化財の指定等に関する事項 | 1件 |
| ⑦ 事務の管理及び執行状況の点検及び評価について | 1件 |

(2) その他の活動

① 学校訪問 小学校20校 中学校15校

全小学校及び中学校を訪問し、各学校の教育活動やコミュニティ・スクールの取組等について説明を受け、授業参観での感想や意見を述べ、学校施設の現況についても説明を受けました。

② 教育委員研修

- ・市町村教育委員会研究協議会（西日本ブロック）への参加

沖縄県で開催されました文部科学省主催の研究協議会に参加し、研修を受けました。

- ・山口県市町教育委員研修会への参加

山口県主催の研修会に参加し、研修を受けました。

3 点検及び評価の結果

平成29年度 点検・評価シート

NO. 1

| 重点取組事項 | ふるさと萩への誇りと志の育成 | 担当課 | 学校教育課 |
|--------|--|-----|-------|
| 目的 | 学校と家庭、地域、産業界等が連携した志教育を推進し、主体的に自らの未来を切り開くとともに、郷土に誇りと愛着を持ち、地域に貢献する子どもを育成する。 | | |
| 目標 | <p>① 萩・農下村塾事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業体験及び職業講話実施率 100% <p>② 13歳 志プロジェクト事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/2成人式及び立志式の実施率 100% ・中学校における「HAGI『志』サポート」の活用率 100% ・将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合の向上 <p>③ 松陰教学推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副読本活用率 100% <p>④ 萩・お宝活用プロジェクト事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの実施率 90% <p>⑤ 長州ファイブジュニア派遣事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣生徒及び保護者の満足度 100% | | |
| 実施状況 | <p>① 萩・農下村塾事業</p> <p>地域等と連携して田植えや稲刈りの体験を行うなど、全ての小中学校において、地域の特色を生かした農業体験及び職業講話を実施した。子どもたちは、お礼状などを書くことを通して、感謝の思いや感動を言葉にすることができた。</p> <p>② 13歳 志プロジェクト事業</p> <p>各学校において、志シートを活用した1/2成人式及び立志式を実施し、児童生徒の夢やあこがれを志まで高めようとするキャリア教育を推進した。児童生徒は、地域や保護者の前で発表し、成長した姿を多くの人に見てもらうことができた。</p> <p>また、職場見学や職場体験を実施し、自分が将来なりたい職業について、様々な観点から考えることができた。</p> <p>③ 松陰教学推進事業</p> <p>小学3年生では「わたしたちのふるさと萩」、小学4年生では「松陰読本」、中学1年生では「郷土 萩」の副読本を配付し、各教科の学習を進める上で、萩の豊かな自然、価値ある歴史、伝統的な文化や産業を学ぶための資料として活用した。2年ごとに改訂し、世界遺産や明倫学舎、萩ジオパーク構想など最新の情報を入れており、活用しやすいものとなっている。</p> <p>④ 萩・お宝活用プロジェクト事業</p> <p>萩博物館、山口県立萩美術館・浦上記念館、萩・明倫学舎、大照院等での観覧体験学習やジオパーク関連地での見学体験学習を実施した。</p> | | |

| | |
|-----|--|
| | <p>⑤ 長州ファイブジュニア派遣事業</p> <p>英国のロンドン大学サマースクールへ語学研修として、中学生5名を約2週間派遣した。中学生は、語学研修だけでなく、長州ファイブゆかりの地訪問や、様々な国の青少年と交流するなど多くのことを学んで帰国した。</p> |
| 成 果 | <p>① 萩・農下村塾事業</p> <p>○農業体験及び職業講話実施率 100%</p> <p>地域の農事組合法人等と連携した取組を進めることで、専門的な知識や技術を得るだけでなく、地域に誇りと愛着を持って働く人々と接することで、萩を誇りに思う児童生徒の心情を育んだ。農業体験の後、礼状を書かせている。感謝の思いや体験を通して得ることができた学びを文字にすることは、子どもたちの内面の成長につながっている。</p> <p>② 13歳 志プロジェクト事業</p> <p>○小学校における1/2成人式の実施率 100%</p> <p>中学校における立志式の実施率 100%</p> <p>○小学校における職場見学の実施率 95%</p> <p>職場体験の実施率 60%</p> <p>中学校における職場体験の実施率 100%</p> <p>○中学校における「HAGI『志』サポート」の活用率 100%</p> <p>○「将来の夢や目標を持っている」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校86.4%（前年度90.6%、平成29年度全国85.9%） ・中学校77.7%（前年度80.0%、平成29年度全国70.5%） <p>③ 松陰教学推進事業</p> <p>○副読本活用率 100%</p> <p>児童生徒が萩の自然、歴史、文化、産業などについて学習する際、萩をより深く知る身近な資料として有効に活用された。また、授業中、疑問や課題を自分の力で解決するときに役立てられた。</p> <p>④ 萩・お宝活用プロジェクト事業</p> <p>○プロジェクトの実施率 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・萩博物館17校（前年度25校） ・山口県立萩美術館・浦上記念館16校（前年度14校） ・大照院1校（前年度5校） ・世界遺産関連地2校（前年度7校） ・ジオパーク関連地5校（前年度3校） ・萩・明倫学舎29校（前年度16校） <p>プロジェクトでは、萩のお宝を活用してふるさとの良さを学習することができた。現地を訪問することで、より一層お宝のもつ価値を肌で感じ取ることができた。事後の感想からは、萩を誇りに感じている児童生徒を多数見取ることができた。</p> |

| | |
|-----------------|--|
| | <p>⑤ 長州ファイブジュニア派遣事業</p> <p>○派遣生徒、保護者の満足度 100%</p> <p>長州ファイブゆかりの地訪問により、明治維新胎動の地としての萩を再発見するとともに、郷土を愛し、郷土に貢献する機運を高めることにつながった。派遣した生徒及び保護者の満足度は非常に高い。</p> |
| <p>今後の取組</p> | <p>① 萩・農下村塾事業</p> <p>農業体験としては、田植えや稲刈りだけではあるが、管理をされている方々の説明を聞き、途中の管理がいかに大切であるかが子どもたちに浸透してきている。</p> <p>各地域の特産品にも着目し、生産に携わる人々の願いや特産品を守り育てる苦労などに触れる活動を充実させることで、地域とのつながりを一層深め、萩市の第一次産業の特長を実感できるような体験活動の更なる充実を図る。</p> <p>② 13歳 志プロジェクト事業</p> <p>9年間の子どもたちの育ちを地域とのつながりの中で支えられるよう、1/2成人式や立志式を保護者や地域と共に行う仕組みづくりに一層取り組む。</p> <p>③ 松陰教学推進事業</p> <p>社会科や総合的な学習の時間を中心としたあらゆる学習の場面で、副読本を活用することにより、ふるさと萩のすばらしさを知るとともに、萩を愛し、誇りに思い、大切にしていこうとする気持ちを一層育成する。</p> <p>④ 萩・お宝活用プロジェクト事業</p> <p>世界遺産を始め、萩の自然・歴史・文化遺産について、事前学習をしっかりと行い、多くの現地を訪問して学習を一層深めていく。</p> <p>また、萩ジオパーク構想と学校教育の連携を図り、特に、理科・社会・総合的な学習の時間のうち、関連する単元においては、ジオパークの視点からの学習を積極的に取り入れるようにする。</p> <p>⑤ 長州ファイブジュニア派遣事業</p> <p>今後も継続して実施し、ふるさと萩に誇りと愛着を持ち、豊かな国際感覚に基づくグローバルな視点で行動できる人材を育成する。</p> |
| <p>学識経験者の意見</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・萩・農下村塾事業の農業体験は、イベント化している感があり、田んぼだけではなく、地域でもっと面白い体験など手法の検討が必要。また食育を含め、畑で生産、収穫したものを地域で共に食べることの体験や漁業体験による魚食普及など地域ごとの手法があっても良いと思う。 ・全体的に評価できる。長州ファイブジュニア派遣事業は継続していただきたい。 ・ジオパークも含めて地域版の副読本があれば良いと思う。 |

| 重点取組 事項 | 学力の向上 | 担当課 | 学校教育課 |
|------------|---|-----|-------|
| 目的 | 各小・中学校における学力向上の取組の工夫改善や充実を図るとともに、小中連携・小小連携・中中連携や保護者・地域との協働により、児童生徒に「確かな学力」をつけさせる。 | | |
| 目標 | <p>① 確かな学力育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業評価実施率(中学校) 100% ・学校運営協議会委員参加の授業改善への取組率 80% ・PDCAサイクルに基づく授業改善への取組率 100% ・全教員の年間2回以上の授業公開の実施率 100% ・全国学力・学習状況調査における各教科の平均正答率が、全国平均より3%以上高い学校の割合 80%以上 <p>② 学校支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・萩市学校教育研究発表大会における参加者の満足度 80%以上 ・チェックリストによる授業改善の実施率 100% | | |
| 実施状況 | <p>① 確かな学力育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校における毎時間の授業評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する生徒の意見を聞き、それを生かして授業改善に取り組んだ。 ・評価の観点や実施方法は、各校で工夫して行った。 ○参観日、ユニット型研修、校内授業研究会を活用し、学校運営協議会委員の授業参観を実施した。 ○年2回のPDCAサイクルに基づく授業改善の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・各学力調査による児童生徒の学力の把握、課題の洗い出し、課題解決に向けた具体的方策を実施した。 ・基礎的・基本的な学習内容の定着に向け、「やまぐちっ子学習プリント」を活用した。 ○校内研究授業、互見授業、学力向上推進リーダー等の訪問日などを積極的に活用し、すべての教員が年間2回以上は授業公開を実施した。 ○同じ中学校区同士の集合学習の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・旭地域：明木小学校、佐々並小学校 ・須佐地域：育英小学校、弥富小学校 ・田万川地域：多磨小学校、小川小学校 ○小規模校と中・大規模校の交流学习の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・相島小学校→椿東小学校、相島中学校→萩東中学校、木間小学校→白水小学校 <p>② 学校支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○萩市学校教育研究発表大会では、今日の教育課題に応える平素の教育実践の成 | | |

| | |
|-----|--|
| | <p>果を発表し合い、学校教育の充実と開かれた学校づくりの推進を図った。</p> <p>○AL Tの派遣による外国語活動・英語科教育の充実</p> <p>語学指導を行う外国青年6名を、中学校英語教育及び小学校外国語活動の改善・充実を図るために派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校における外国語授業や小学校における外国語活動の補助 ・外国語教材作成の補助及びスピーチコンテスト等への協力 ・教員に対する外国語研修への補助など <p>○指導主事がリーフレット「萩市の学力向上をめざして」に掲げる重点取組事項チェックリストを用いて、授業へのアドバイスや校内研修等における指導助言を行った。</p> <p>○へき地・複式教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省のICT実証研究事業を活用し、佐々並小学校と明木小学校でテレビ会議システムによる遠隔合同授業に取り組んだ。 ・複式授業研修センターを立ち上げ、「萩市複式授業サポートブック」を作成し複式学級を有する小学校に配布した。 ・複式学習指導員が複式指導を必要とする学校を訪問し、複式授業についての指導助言を行った。 |
| 成 果 | <p>① 確かな学力育成事業</p> <p>○毎時間の授業評価実施率(中学校) 13% (前年度67%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期末や単元末などに授業評価を実施している学校が多い。 <p>○学校運営協議会委員参加の授業改善への取組率 51.7% (前年度40%)</p> <p>○PDCAサイクルに基づく授業改善への取組率 100% (前年度100%)</p> <p>○全教員の年間2回以上の授業公開の実施率 100% (前年度100%)</p> <p>○全国学力・学習状況調査における各教科の平均正答率が、全国平均より3%以上高い学校の割合 小学校36.8% (前年度42%) 中学校71.4% (前年度61%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校：国語Aで全国平均を上回り、国語Bは全国平均とほぼ同じ、算数A・Bは全国平均を下回った。 ・中学校：国語A・B、数学A・Bすべてで全国平均を上回った。 <p>② 学校支援事業</p> <p>○萩市学校教育研究発表大会における参加者の満足度 80.8% (前年度84.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島市児童相談所嘱託医岡田先生の講演により、対応に困難さを感じる児童生徒や保護者への接し方のヒントを多く聞くことができ、今後の生徒指導や教育相談、家庭支援に役立つ研修となった。 <p>○チェックリストによる授業改善の実施率 100% (前年度100%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校の校内研修等に指導主事が参加し、チェックリストに基づいた指導助言を行った。 ・学力向上推進リーダー・推進教員による授業実践や授業改善への指導・助言を |

| | |
|----------|--|
| | <p>チェックリストに基づいて行った。</p> |
| 今後の取組 | <p>① 確かな学力育成事業</p> <p>全国学力・学習状況調査等の結果について、誤答分析をしっかりと行うことで児童生徒の課題を把握し、それを授業改善に生かす取組を各学校で進める。特に、算数Bにおいて定着に課題が見られるので、学習したことを繰り返したり確かめたりする時間や、学習したことを用いて他の課題や他の場面に適用する時間を設けるなど、授業の中で習熟を図る時間を設定する。</p> <p>また、互見授業の推進や授業後の研修の工夫により、教員一人一人の授業力向上を図りたい。</p> <p>② 学校支援事業</p> <p>萩市学校教育研究発表大会の内容の充実を図るとともに、多くの保護者、学校運営協議会委員、地域住民等の参加に努める。</p> <p>佐々並小学校と明木小学校でのテレビ会議システムによる遠隔合同授業の実証研究の成果を踏まえ、今後他の中山間地や離島の小規模校への拡充を検討する。</p> <p>また、引き続き、複式学習指導員による複式指導を必要とする学校への訪問指導を行う。</p> |
| 学識経験者の意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・佐々並小学校と明木小学校でのテレビ会議システムによる遠隔合同授業は継続していただきたい。 ・複式学級の指導も学力の低下のないよう指導をしていただきたい。 ・特別支援の子どもたちが増えている中、大規模校での学習支援や個別教室等施設の対応をお願いします。 |

| 重点取組 事項 | 豊かな心の育成 | 担当課 | 学校教育課 |
|------------|---|-----|-------|
| 目的 | 自他の良さを認め合い、他人を思いやる優しい心を持った子どもを育成する。 また、いじめや不登校等の生徒指導上の諸課題の未然防止を図るとともに、問題を抱えた児童生徒及び保護者に対して、共に悩み、寄り添う伴走型支援を行う。 | | |
| 目標 | ① 生きる力を持った子ども育成事業 ・チャレンジ目標の設定及び学校評価への位置づけ 100% ・週1回以上のアンケートの実施率 100% ② スクールガードリーダー設置事業 ・登下校時における無事故の学校の割合 80% ③ 子ども相談・支援室事業 ・「子ども相談・支援室が役に立った」という学校の割合 90% ・いじめ、不登校及び暴力行為の減少 ④ 子育て科創設事業 ・「子育て科」の実施率 100% | | |
| 実施状況 | ① 生きる力を持った子ども育成事業 地域教育ネットの中学校区の小中学校又は幼稚園・保育園等を巻き込んで、15年間を見通し、生活規律・学習規律の重点取組項目ーチャレンジ目標（「明るいあいさつや正しい姿勢・鉛筆の握り方や発表の仕方」）を決めて、全ての教職員が一貫して指導を行い、児童生徒の「生きる力」を醸成した。特に各学校はその目標の達成のために、学校評価にも位置づけ、具体的な数値目標を掲げ実践し、PDCAサイクルで検証した。 また、週1回以上の生活アンケートを各学校が実施し、子どもたちの困りごとの早期発見に努めた。また、その結果を市教委に報告し、情報を共有した。 ② スクールガードリーダー設置事業 3名のスクールガードリーダーを設置し、全ての小中学校へ1校あたり平均約4回派遣した。スクールガードリーダーは、管理職や教職員への学校生活の安全管理における指導助言、学校内外のパトロール、防犯や災害避難訓練の講師、通学路の安全点検などを行い、事件・事故の未然防止に努めた。 ③ 子ども相談・支援室設置事業 小中学校の生徒指導上の諸課題の解決、いじめ、不登校、児童虐待等の困難な事案に対して、専門的かつ継続的に対応するため「子ども相談・支援室」（萩市教育委員会内）が中心となり、子どもに関わる相談や支援の充実に努めた。 いじめに関しては早い段階からスクールカウンセラーを派遣し、ケース会議を開いて、被害生徒や加害生徒のケアを行い、重大事案に発展する前に解消することができた。 | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|---|------|--------|------|--------|--------|------|--------|------|-----|------|--------|-----|------|--------|-------|-----|------|--------|-----|------|--------|
| | <p>不登校に関しては教育支援センター「萩輝きスクール」を運営し、経験豊富な6名の支援員が、教室復帰を目指す児童生徒の心の安定に努めた。</p> <p>また、保健師、児童相談所の心理士、医師とも連携して、不登校の子どもの家族に寄り添い、支援した。</p> <p>④ 子育て科創設事業</p> <p>小中学校9年間で約100時間の授業を「子育て科」として実施し、「学ぼう自分の育ち、感じよう家族の愛情、伝えよう命の尊さ」をキャッチフレーズとして、系統立てて学習した。また保健師と連携し「乳幼児ふれあい体験」などを行った。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成 果 | <p>① 生きる力を持った子ども育成事業</p> <p>○チャレンジ目標を設定し、学校評価の中に位置づけ 100%</p> <p>○週1回以上のアンケートの実施率 100%</p> <p>② スクールガードリーダー設置事業</p> <p>○年間登下校時における無事故の学校の割合 94%(前年度83%)</p> <p>③ 子ども相談・支援室設置事業</p> <p>○いじめ、不登校及び暴力行為の現状</p> <p>※数値は児童生徒100人当たりの割合(単位：%)</p> <p>()内は前年度</p> <table border="0"> <tr> <td>・いじめ</td> <td>小学校</td> <td>1.65</td> <td>(1.74)</td> <td>中学校</td> <td>4.90</td> <td>(4.31)</td> </tr> <tr> <td>・不登校</td> <td>小学校</td> <td>0.31</td> <td>(0.05)</td> <td>中学校</td> <td>1.06</td> <td>(1.38)</td> </tr> <tr> <td>・暴力行為</td> <td>小学校</td> <td>0.10</td> <td>(0.45)</td> <td>中学校</td> <td>0.96</td> <td>(0.64)</td> </tr> </table> <p>・いじめについては、小学校で32件、中学校で51件認知されたが、その解決のために全職員が組織的に対応し、ほぼ解消している。</p> <p>・不登校(年間30日以上欠席)の児童生徒数は、小学校で6人、中学校で11人。100人当たりの割合は小学校が28年度0.05%から増えて0.31%と増加した。不登校の理由は個別の事案ごとに様々である。中学校においては28年度1.38%から1.06%と減少した。関係機関と連携して対応する事案については、子ども相談・支援室が参加するケース会議を開催し、継続的な支援を行っている。</p> <p>・暴力行為は小学校で2件、中学校で10件発生した。前年度は小学校で9件、中学校で7件発生した。件数が減少しない背景は、言葉によるコミュニケーションを苦手とし、何らかの言動に対して感情的になり、すぐに暴力行為に結びついてしまうことが考えられる。</p> <p>・事案によって関わりの度合いは異なるが、各校と子ども相談・支援室は密接につながっており、一体となって各課題に対応している。</p> <p>④ 子育て科創設事業</p> <p>○「子育て科」の実施率 100%</p> | ・いじめ | 小学校 | 1.65 | (1.74) | 中学校 | 4.90 | (4.31) | ・不登校 | 小学校 | 0.31 | (0.05) | 中学校 | 1.06 | (1.38) | ・暴力行為 | 小学校 | 0.10 | (0.45) | 中学校 | 0.96 | (0.64) |
| ・いじめ | 小学校 | 1.65 | (1.74) | 中学校 | 4.90 | (4.31) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・不登校 | 小学校 | 0.31 | (0.05) | 中学校 | 1.06 | (1.38) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・暴力行為 | 小学校 | 0.10 | (0.45) | 中学校 | 0.96 | (0.64) | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-----------------|---|
| <p>今後の取組</p> | <p>① 生きる力を持った子ども育成事業</p> <p>様々な要因で、幼少時の家庭環境において思うような愛情が得られない愛着障害を抱える児童生徒が増える傾向がみられる。そのため、常に他人の愛情を試したり、気を引こうとしたりするトラブルが減少しない。そういった児童生徒の「育てなおし」に保護者、学校、関係機関や地域が協力して、なるべく早いうちから、支援に入り、児童生徒が社会的に自立できるまでの息の長いサポートを行っていく。</p> <p>② スクールガードリーダー設置事業</p> <p>「自分の身は自分で守る」をモットーに避難訓練や危険予知トレーニング学習などをスクールガードリーダーと学校が協力して行い、交通事故をはじめとした様々な危機、災害、トラブルから自他の命を守る自助・共助の意識と技術を習得することを目標として取組を深める。</p> <p>③ 子ども相談・支援室設置事業</p> <p>コミュニケーション能力の低下から集団にうまく適応できない児童生徒が増えていることから、その子どもや保護者の悩みに寄り添い、支援していく。</p> <p>いじめに関しては、各学校のいじめ対策会議に今後も、子ども相談・支援室が積極的に参加するとともに、「萩市いじめ問題対策連絡協議会」を有効に活用し、関係機関と連携を図り、いじめの未然防止に全力をあげて取り組む。</p> <p>不登校に関しては、教育支援センター「萩輝きスクール」につなぐため、休み始めの早い時期から学校、保護者、関係機関とケース会議を行い、連携し支援する。</p> <p>また、完全な引きこもりを作らないため、定期的な家庭訪問やアウトリーチ活動に今後も引き続き関係機関と連携して取り組む。</p> <p>④ 子育て科創設事業</p> <p>本事業は3年目を終え、学校で定着してきた。命の大切さや、家族のありがたみ、子育ての大切さや楽しさを学校・家庭・地域が9年間かけて子どもに教え導くことについては、これからも継続して取り組む。</p> |
| <p>学識経験者の意見</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・法務局では、「SOSミニレター」による子どもからの相談を受けているので、この子ども相談・支援室設置事業と連携した早急な対応ができると良いと思う。 ・子育て科創設事業は3年目ということで、命の大切さや家族のありがたさが分かり、大変良い事業と思う。是非、今後も継続して取り組んでいただきたい。 ・生きる力を持った子ども育成事業については、「家庭」が大切だと思う。子どもだけではなく保護者を巻き込み家庭を大事にしていけるよう保護者への啓発や連携した取組をお願いしたい。週1回以上のアンケート実施は素晴らしいことと思うが、教師の負担にならないようお願いしたい。 |

| 重点取組事項 | 健やかな体の育成 | 担当課 | 学校教育課 |
|--------|--|-----|-------|
| 目的 | 学校、家庭及び地域が連携し、子どもの発育段階に応じた基礎体力の向上、望ましい生活習慣の形成を図り、健やかな体づくりを推進する。 | | |
| 目標 | <p>① 一校一取組推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、毎週決まった曜日・時間に運動を実施する学校の割合 100% <p>② 保健推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の95%以上が朝食を食べる学校の割合 100% ・生活習慣のチェック及び改善を保護者とともに実施する学校の割合 100% <p>③ 食育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任、栄養教諭、栄養士及び養護教諭とのチーム・ティーチングによる食育指導を実施する学校の割合 100% | | |
| 実施状況 | <p>① 一校一取組推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての小中学校において、運動の時間を設けて取り組んだ。 <p>② 保健推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を食べるという習慣を身につけさせるため全ての小中学校で保護者と連携して、生活習慣のチェックを実施した。 <p>③ 食育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任、栄養教諭、栄養士及び養護教諭とのチーム・ティーチングによる食育指導を実施し、バランスよく食べることの重要性を指導した。 ・地域の特色を生かした献立を使った食に関する指導を実施した。 | | |
| 成果 | <p>① 一校一取組推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して、毎週決まった曜日・時間に運動を実施する学校の割合 49% <p>② 保健推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の95%以上が朝食を食べる学校の割合 82% ○生活習慣のチェック及び改善を保護者と共に実施する学校の割合 100% <p>③ 食育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○担任、栄養教諭、栄養士及び養護教諭とのチーム・ティーチングによる食育指導を実施する学校の割合 100% ○地域の特色を生かした献立「萩まるごと食べちゃろうデー」を年9回実施。 | | |
| 今後の取組 | <p>① 一校一取組推進事業</p> <p>今後も継続することで、適切な運動量の確保による基礎体力向上を目指す。</p> <p>② 保健推進事業</p> <p>生活チェックを継続して行うことで、望ましい生活習慣づくりを行うとともに、体力や運動習慣に関する情報の発信をし、家庭や地域とともに健康な体づくりの意識を高めていく。</p> | | |

| | |
|-----------------|--|
| | <p>③ 食育推進事業</p> <p>引き続き、ティーム・ティーチングによる食育指導を実施し、食事の大切さや楽しさを理解させる。朝食をバランスよく取ることの大切さも指導し自ら食生活を管理する能力を身につけさせる。</p> <p>また、地域の特色を生かした献立を使った食に関する指導をさらに充実させ、地域の食文化について理解を深める。</p> |
| <p>学識経験者の意見</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を取ることへの指導として、簡単レシピ等をPTAへ配布してはどうか。 ・塩分の取りすぎは、子どもの時から注意する必要があり、家庭の協力が必要不可欠と思う。 |

| 重点取組 事項 | 地域コミュニティの核としての学校づくり | 担当課 | 学校教育課 |
|------------|--|-----|-------|
| 目的 | コミュニティ・スクールを核として、地域や保護者が連携・協働し、地域ぐるみで子どもの学びや育ちを支える取組を推進するとともに、地域に開かれ、地域に貢献する学校づくりを目指す。 | | |
| 目標 | <p>① コミュニティ・スクール推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の設置率 100% <p>② 開かれた学校づくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを運営する学校の割合 100% ・学校評価を公表する学校の割合 100% | | |
| 実施状況 | <p>① コミュニティ・スクール推進事業</p> <p>地域住民との連携・協働、児童生徒の地域ボランティアへの参加を積極的に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の来校者数（延べ人数） 約44,000人(前年度40,000人) ・授業に活用した地域人材の人数（延べ人数） 約4,200人(前年度3,000人) ・部活動に活用した地域人材の人数（延べ人数） 約1,500人(前年度1,500人) ・地域住民の見守り活動への参加者数（延べ人数） 約26,000人(前年度28,000人) ・児童生徒の地域ボランティア参加回数（1人当たり） 約4.5回/人（前年度約4.2回/人） <p>② 開かれた学校づくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小中学校がホームページを開設しており、学校行事の様子やコミュニティ・スクールの取組、小中一貫教育の取組など幅広く情報発信した。 ・全ての小中学校でホームページや学校だより等に掲載、PTA総会（懇談会）や学校運営協議会等での説明などの方法で、学校評価を公表した。 | | |
| 成果 | <p>① コミュニティ・スクール推進事業</p> <p>○学校運営協議会の設置率 100%</p> <p>統廃合や併設、小中一貫教育校の設置により、小学校・中学校合同の学校運営協議会を設置する学校も徐々に増えている。多くの学校では、学校課題を共通理解する「熟議」が行われ、「地域協育ネット」と連携した取組へと発展させている。こうした「地域協育ネット」とのつながりは、学校へ来校する地域住民の人数や児童生徒のボランティア活動への参加回数の増加に影響しており、学校が地域と一体となった取組が一層進められている。</p> | | |

| | |
|-----------------|---|
| | <p>② 開かれた学校づくり事業</p> <p>○ホームページを運営する学校 100%</p> <p>児童生徒の普段の様子が写真付きで分かりやすく公開されており、保護者や地域住民にも好評である。</p> <p>また、ホームページでコミュニティ・スクールの情報を積極的に公開している学校では、WEB上の情報を手がかりに他県からの視察申込みが多く寄せられており、本市の先進的な取組が評価されている。さらに、本年度からは、小中一貫教育校も積極的な情報発信に努めており、本市が推進する小中一貫教育を広く周知している。</p> <p>○学校評価を公表する学校の割合 100%</p> <p>学校評価の公表が進んでおり、学校関係者の間に評価項目が浸透しつつある。さらに、評価項目の中に学校運営協議会で協議された、求める児童生徒像の具体的な姿を加えることで、学校運営協議会と連携したPDCAサイクルが定着しつつある。</p> |
| <p>今後の取組</p> | <p>① コミュニティ・スクール推進事業</p> <p>教職員を対象としたアンケート調査では、「地域の方に子どもの顔を覚えてもらい、防犯・防災の面でもよかった。」「児童生徒が落ち着き、保健室への来室状況が改善した。」という意見がある。コミュニティ・スクールの推進から生じる多忙感はあるものの、それ以上の効果を実感している学校も多い。今後は、学校運営協議会委員の参加によるユニット型研修の充実や、業務改善の視点を取り入れた取組を広めていく。</p> <p>② 開かれた学校づくり事業</p> <p>ホームページを運営する学校が100%となっている。今後も、その充実のための運営・作成に係る情報提供に努めるとともに、学校における教育活動の報道関係への情報提供を促進したい。また、学校評価については、学校関係者評価が評価者にとって分かりやすいものとなるよう、評価項目の具体化を図ったり、日常的な学校参観の機会を多く設けるよう働きかけていく。</p> |
| <p>学識経験者の意見</p> | <p>・見守り活動の参加者が減少している。保護者にも見守りの意識を持っていただきたい。下校時の声かけや家の前に立つことで見守り活動となると思う。</p> |

| 重点取組事項 | 教育の専門家としての教師の育成 | 担当課 | 学校教育課 |
|--------|---|-----|-------|
| 目的 | 初任者、2年次～4年次、ミドルリーダー等、教員それぞれのキャリアステージに応じて、基礎・基本的な研修から専門的な研修まで実施することで、個々の教員の資質・能力の向上を図る。 | | |
| 目標 | ① 教育の専門家としての教師の育成 ・1,000日プランを実施する学校の割合 100% (1,000日プラン対象者の在籍校) | | |
| 実施状況 | ① キャリアステージに応じた教職員研修事業 ○はぎ人材育成1,000日プランの実施 ・すべての対象教員(初任者～4年次50名)が1,000日プランを作成した。プランやその実施状況を人材育成会議で共有し、全校体制で人材育成を推進した。 ・1,000日プラン担当者会議を開催し、各学校の人材育成の中核となる教員で対象教員の成長や課題の共有、指導方針についての協議を行った。 ・1,000日プラン実践研修会を延べ4回(一斉研修会1回、地区別研修会3回)実施し、指導案づくり、公開授業及び授業検討会を行い、学習指導を中心に教員としての基礎・基本的な資質の向上を図った。 ○萩塾の実施 ・学習指導、生徒指導、特別支援教育、道徳教育、英語教育、学級経営等の内容により、各分野のスペシャリストによる実践事例発表、ワークショップ型研修など実効性のある研修を計8回実施した。 ○ミドルリーダー研修会の実施 ・中堅教員(18名)に対して、学校経営に係る様々な角度からの専門的な研修を計7回実施した。 | | |
| 成果 | ① キャリアステージに応じた教職員研修事業 ○1,000日プランを実施する学校の割合 100% ・1,000日プランの仕組みをシンプルに示すとともに、地区別研修会の実施を推進したことで、学校の垣根を越えた教員のつながりが生まれ、各学校の取組が活性化した。 ○萩塾の実施 ・若手教員だけでなく、様々な年齢層の教職員が多数参加しており、学習指導、特別支援教育、英語教育といった様々な視点から授業づくりや学級づくりについて研修を深めた。 ○ミドルリーダー研修会の実施 ・参加した中堅教員は、自分の担当する校務分掌や授業といった視点からだけで | | |

| | |
|----------|--|
| | なく、学力向上、人材育成、学校運営等多角的な視点から研修を深めた。 |
| 今後の取組 | <p>① キャリアステージに応じた教職員研修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、萩市内に多くの新規採用教員が着任することから、市内すべての学校がはぎ人材育成1,000日プランや各学校の校内研修の計画を共有し、教職員研修の活性化を図る。 ・キャリアステージに応じた研修テーマの設定や大学教授等の専門的知識を有する講師を招へいすることで、萩塾とミドルリーダー研修の一本化を図る。 ・萩塾において、「授業づくり」を研修テーマの中核に置き、受講生同士が互いに高め合いながら研修を行うことができる内容を計画する。 |
| 学識経験者の意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・新採教職員には特に地域住民との交流、地域とのつながりを大切にして、今後の教育活動に生かして欲しい。 ・新採教職員の精神面・身体面について、中堅教職員の支援や業務の改善により組織的なサポートを考えてはどうか。業務の取捨選択をするなどして働き方改革の検討も必要ではないかと思う。 ・他業種への勤務体験の研修があっても良いと思う。 |

| 重点取組事項 | 特色ある学校づくりの推進 | 担当課 | 学校教育課 |
|----------|--|-----|-------|
| 目的 | 地域や学校の特色を鮮明にした教育の実現に向けて、特色ある教育活動推進拠点校（コアスクール）を設定し、創意と活力に満ちた学校づくりを推進する。 | | |
| 目標 | ① 特色ある教育活動拠点校構想事業 ・拠点校の設定率 100% | | |
| 実施状況 | ① 特色ある教育活動拠点校構想事業 ○コアスクールの取組 ・松陰教学 2校 ・コミュニティ・スクール 4校 ・ふるさと学習 13校 ・小中一貫教育 4校 ・保小中連携教育 2校 ・小中連携教育 8校 ・漁業学習 2校 ・小中一体教育 2校 ・キャリア教育 5校 ・地域との連携 12校 ・農業・林業体験学習 4校 ・伝統文化の継承 3校 ※重複学校有り | | |
| 成果 | ① 特色ある教育活動拠点校構想事業 ○拠点校の設定率 100% ○地域を学習の場として地域人材を活用した教育活動が展開され、地域の歴史や産業等を継承・発展させる心情を育てている。 ・明倫小学校、椿東小学校・・・松陰教学、松下村塾の志を取り入れた教育 ・大島小中学校・・・地域産業としての漁業体験を通じたキャリア教育 ・むつみ中学校・・・豊かな森林資源を活用した体験学習 ○学校規模や学校の立地条件を活用し、小中学校で一貫した教育活動が展開され、幼児・児童・生徒間のつながり、地域とのつながりが深まった。 ・大井小中学校、三見小中学校、見島小中学校、福栄小中学校・・・小中一貫教育の推進 ・木間小中学校、相島小中学校、大島小中学校・・・小中連携教育の推進 ・川上小中学校、越ヶ浜小中学校・・・保小中連携教育の推進 | | |
| 今後の取組 | ① 特色ある教育活動拠点校構想事業 今後は、地域や学校の特徴を生かしたやまぐち型地域連携教育の取組を更に推進するとともに、児童生徒の9年間の育ちを見通した小中連携カリキュラムや小中一貫カリキュラムの実践に取り組み、特色ある学校づくりを推進する。 | | |
| 学識経験者の意見 | ・地域の特色を生かした学校づくりについては、これまでと同様に推進していただきたい。 | | |

| 重点取組 事項 | 教育環境の整備 | 担当課 | 教育政策課 |
|------------|---|-----|-------|
| 目的 | 計画的な学校施設等の整備や情報化の進展に対応した機器整備など安全で質の高い教育環境の整備、充実を図る。また、中学生が地元の高校へ進学しやすい環境を整え、地元高校への進学率の向上を目指す。 | | |
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ① 学校施設整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ・耐震化率 100% ② 情報教育整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ・無線LAN整備率 100% ③ 安心安全な学校給食提供事業 <ul style="list-style-type: none"> ・県産食材使用率 70% ④ 地元の高校に進学しやすい環境整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ・地元高校への進学率 80% | | |
| 実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> ① 学校施設整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ○改築・改修・解体事業 <ul style="list-style-type: none"> ・白水小学校…給食配送車屋根設置工事 ・椿東小学校…給食室空調機設置工事、屋内消火栓設備改修工事、倉庫解体工事、下水道接続工事 ・明倫小学校…特別支援学級改修工事、屋内運動場特定天井耐震対策工事 ・むつみ小学校…屋内運動場特定天井耐震対策工事 ・大島小中学校…屋内運動場雨樋改修工事 ・萩西中学校…給食室空調機設置工事、予防保全工事 ・須佐中学校…屋上防水改修工事、予防保全工事 ・見島小中学校…屋内運動場屋根防水改修工事、見島教職員住宅改築工事 ・川上中学校…屋内運動場特定天井耐震対策工事 ○遊具整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ・遊具の点検 小学校19校 中学校14校 ② 情報教育基盤整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ○無線LAN整備 <ul style="list-style-type: none"> 無線LANを9校(小学校5校、中学校4校)で整備 ○タブレット型コンピューター整備 <ul style="list-style-type: none"> 4校(小学校1校、中学校3校)でタブレット型コンピューターに更新 ③ 安心安全な学校給食提供事業 <ul style="list-style-type: none"> ○食育及び地産地消の推進を図るため萩産の食材を活用する「萩まるごと食べちゃろうデー」を毎月実施。「県産食材100%献立」を9回実施。 ④ 地元の高校に進学しやすい環境整備事業 | | |

| | |
|-------|--|
| | <p>○地元の高校に遠距離通学する高校生を対象に列車、バス定期代の一部を助成</p> <p>○平成29年度から離島や遠距離等通学困難な女子高校生を対象とした女子寮の運営を開始（入居者6名）</p> |
| 成 果 | <p>① 学校施設整備事業</p> <p>○学校施設の耐震化は改築・改修等により、平成27年度に耐震化率100%を達成した。平成28年度からは、屋内運動場のつり天井等の非構造部材の耐震化を計画的に実施し、平成29年度に100%に達した。また、予防保全事業を実施し、施設の延命化を図った。</p> <p>○遊具については、平成29年度に全小中学校の遊具点検を実施。</p> <p>② 情報教育基盤整備事業</p> <p>○無線LAN整備率 100%（前年度76.5%）</p> <p>○タブレット型コンピューター整備率 100%（前年度89.8%）</p> <p>③ 安心安全な学校給食提供事業</p> <p>○県産食材使用率 71.7%（前年度69%）</p> <p>④ 地元の高校に進学しやすい環境整備事業</p> <p>○地元高校への進学率 71%（前年度72%）</p> |
| 今後の取組 | <p>① 学校施設整備事業</p> <p>○耐震化が完了した学校施設については、計画的に予防保全、改修等を実施し、安心・安全な教育環境の確保及び施設の長寿命化を図る。</p> <p>○遊具については、平成29年度に点検を実施。点検結果に基づき、平成30年度で使用不可の遊具撤去、平成30・31・32年度で改修を実施するとともに、今後も定期的に安全点検を実施し、必要に応じて撤去、新設、改修を行う。</p> <p>② 情報教育基盤整備事業</p> <p>○無線LAN整備及びタブレット型コンピューター整備については、平成29年度に整備率100%を達成した。今後は、構築したネット環境及びウェブカメラなどを活用し、学校間（主に小規模校）の共同学習の実施に取り組む。</p> <p>③ 安心安全な学校給食提供事業</p> <p>○産地情報交換会を毎月行い、引き続き「萩まるごと食べちゃろうデー」等を実施するなど地元産食材の使用に努め、引き続き県産食材使用率70%以上を目指す。</p> <p>④ 地元の高校へ進学しやすい環境整備事業</p> <p>○引き続き通学費の支援や女子寮を運営して、市内の高校に進学しやすい環境整備に努める。また、高校魅力化プロジェクト会議を設置し、中学校、高校、教育委員会が連携を密にして、高校の魅力化に向けた取組を検討するとともに市報等で高校の情報発信を行い、中学生が市内の高校に進学したいと思う環境づくりを推進する。これらの取組により、平成30年度中学校卒業生の地元高校への進学率80%を目指す。</p> |

| | |
|----------|--|
| 学識経験者の意見 | <ul style="list-style-type: none">・学校施設にエアコンを設置することについて、検討した方が良いと思う。・暑い時期には、登校後、特に低学年の児童が教室に入るまでの間に、ミストの活用など、クールダウンできるような場所があれば良いと思う。 |
|----------|--|